

# ドイツにおける子どもの家庭から保育施設への 移行を支える多言語絵本の現在 — ミュンヘン市の「ようこそ Kita へ」を観点として —

Mehrsprachige Medien zur Förderung des Übergangs des Kindes von der Familie  
in die Kindertagesstätte in Deutschland

— mit Fokus auf das Bilderbuch „Willkommen in der Kita“ in München —

船 越 美 穂

Miho FUNAKOSHI

学校教育ユニット

(令和2年9月29日受付, 令和2年12月10日受理)

## はじめに

ドイツでは家庭から保育施設への移行(Übergang)体験は、その後の子どもの育ちに影響を与えるものと考えられており、慣らし保育に重きが置かれている。バイエルン州幼児教育計画(Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. 以下, BEP と略)<sup>1</sup>によると、移行とは時間上の境界となる人生の一時期であり、各人が切実なこととして体験する出来事が原因になると定義されている(85)。移行は家庭において(例えば、結婚、子どもの誕生、別離や離婚、死)、自らにおいて(例えば、思春期や青年期、重い病気)、教育歴のプロセスにおいて(例えば、保育施設への入園、学校への移行)、そして職歴において(例えば、就職、定年、失業)起こりうる(85)。移行は、個人の発達を促し、新しいことへの喜びや好奇心をもたらすとともに、困難や不安をも生み出す、人生における決定的な出来事である(85)。BEPでは、移行克服の成功体験は、子どもを強くし、彼らのアイデンティティを豊かにすると考えられている(88)。それゆえ、保育施設では子どもの移行克服のために綿密なプランが組まれなければならない。

ドイツにおいて、家庭から保育施設への移行に関する理論モデルとして代表的なものは、ベ

ルリンモデルとミュンヘンモデルである(Becker-Stoll/Niesel/Wertfein 2014, S. 60-61)<sup>2</sup>。両者に共通しているのは、慣らし保育には必ず親が同伴すること、担当保育者が援助を行うこと、子どもと親との分離に十分配慮することである(S. 60-61)。

従ってBEPでは、成功する移行克服はすべての関係者によって共同で作るプロセスであると捉えられている(87)。この共同作業プロセスの中心に、親がいることは言うまでもない。しかし、親は自身の移行を克服するとともに、子どもの移行を援助しなければならないため、2倍の要求が課せられている(87)。親もまた自らの移行克服のために、「保育園、あるいは幼稚園の親になるための支援」を必要としている(97)。このため、保育者には子どもだけでなく、親の移行克服をも支援することが求められる。

現在、ドイツの多民族化、多文化化は急速に進行し、保育施設に移民の背景を持つ子どもたちが在籍していることは当たり前の光景となっている。むしろ、今日では、難民の背景を持つ子どもたちの入園によって、保育施設の多様化がさらに進み、保育者に求められる課題はさらに複雑になっているのが現状だ。

家庭から保育施設への移行に際して、移民や難民の背景を持つ子どもや親の場合、言語や文化の違いに配慮したサポートが必要となってくること

が考えられる。BEPによると、早期に、広範囲にわたって情報を与えられた親は、あまりストレスを受けることなく、子どもたちにより良い支援を提供することができる(87)。子どもにとっても、移行に際して、挿絵や家庭言語でわかりやすく情報が提供されると、新しい環境に対する不安が軽減するであろう。

ミュンヘン市では、2007年以來、家庭から保育施設への移行克服の媒体として、ミュンヘン市立保育施設<sup>3</sup>への新入園児に多言語絵本「ようこそ Kita へ」を配布している。この絵本はミュンヘン市のホームページでもダウンロードができるため、公立園以外の園においても印刷が可能となっている。本稿ではミュンヘン市の多言語絵本「ようこそ Kita へ」を分析し、その特徴を明らかにするとともに、作者であるツイントル氏へのインタビューを通して、絵本成立の経緯、作者としての思い、さらに子どもの移行克服に果たす役割について明らかにする。また、近年になって、移民や難民の背景を持つ親を対象とする多言語小冊子が国家レベルや州レベルで刊行されるようになった。本稿では、親対象のこれらの多言語小冊子をも分析することを通して、移行克服に際しての情報提供の意味を明らかにしたい。そして、これらの研究課題の解明を通して、日本における家庭から園への移行をめぐる問題に対して提言を試みることにする。

## I. 多言語絵本「ようこそ Kita へ」

ミュンヘン市教育スポーツ局はミュンヘン市立保育施設新入園児対象に、多言語絵本「ようこそ Kita へ」<sup>4</sup>を出版配布している。ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、ロシア語、トルコ語、アラビア語、ギリシア語、クロアチア語、セルビア語、スペイン語の11言語で書かれている。絵本は、Kita (Kindertagesstätte: 保育施設) への入園が決まって、最初に親子が園を訪問した際に保育施設のコネプトと一緒に配布する。

ここでは、作者のツイントル氏 (Paula Zintl) とミュンヘン市教育スポーツ局保育施設管轄部門のトップであるヘルマン博士 (Susanne Herrmann) の承諾のもと、絵本の内容を翻訳して紹介する。さらに、作者のツイントル氏へのインタビューによって、絵本出版までの経緯や目的、作者の思いなどを明らかにし、多言語絵本「ようこそ Kita へ」の特徴を究明する。

## 1. 「ようこそ Kita へ」の内容

「ようこそ Kita へ」は17ページで構成されている。ページごとに筆者による日本語訳をつけて紹介する。

### (1) 表紙



### (2) 扉

Paula Zintl

Willkommen  
in der Kita  
Illustration: Christoph Gremmer

Willkommen DEUTSCH | Welcome ENGLISH  
Bienvenue FRANZÖSISCH | Benvenuti ITALIENISCH  
Добро пожаловать РУССКИХ | Hoş geldiniz TÜRKİŞ  
Dobrodóšli SERBISCH | Dobrodošli KROATISCH  
Bienvenidos ESPAÑOL | Καλωρίηδες GRIECHISCH  
مرحبا ARABISCH



### (3)

Hallo, ich heiÙe Mirjam.  
Und mein Name ist Deniz.  
Wie heiÙt du? Wie ist dein Name?

Hello, my name is Mirjam.  
And my name is Deniz.  
What is your name? How old are you?  
Bonjour, je m'appelle Mirjam.  
Et toi, je m'appelle Deniz.  
Comment tu s'appelles? Tu as quel âge?  
Ciao, mi chiamo Mirjam.  
E io Deniz.  
Come ti chiami? Quanti anni hai?  
Salut, mami dzay! Mirjam.  
A woi imi Deniz.  
Kac neliw imi? Cakozw neliw imi?



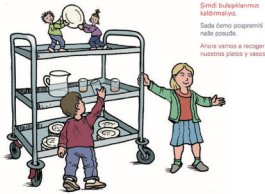
Merhaba, benim adım Mirjam.  
Benim de adım Deniz.  
Senin adın ne? Ne yaşıyorsun?

Zdravo, ja se zovem Mirjam.  
A ja se zovem Deniz.  
Kakvo ime? Kakvo imat godina?  
Zdravo, ja se zovem Mirjam.  
A ja se zovem Deniz.  
Kako se ti zoveš? Kakvo godiš ime?  
Hola, me llamo Mirjam.  
Y yo Deniz.  
¿Cómo te llamas? ¿Cuántos años tienes?  
Tud csupán Mirjam.  
Nagyon jó! Deniz.  
Egyéb név is? Hány éves vagy?  
مرحبا، اسمي ميريام.  
واسمي دنيز.  
كيف اسمك؟ كم عمرك؟

こんにちは、わたしはミリヤムよ。  
ぼくのなまえはデニス。  
きみのなまえは？ きみはなんさい？



(12)



さあ、しょっきをかたづけよう。

(16)

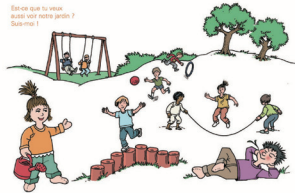
Bak,  
kizi armaye geldiler! Hoppa  
kaf! 'Nevn g'origmek Linnel!  
Linnel,  
duccoc po nall!  
Dondaral! K'edmo se sarral!  
Vid:  
dukl' eu po nall!  
Dondaral! Oa sarral!  
Mira,  
je ne vois rien a manger!  
(Aussi) (Passez-moi!)  
K'edmo,  
duccoc po nall! Hoppa!  
Eto onndaral! Oa sarral!  
البن  
جان اناي اناي اناي  
اناي اناي اناي



ごらん、おむかえがきたよ！  
さようなら！  
また、あした！

(13)

M'aimerais du saut  
unseren Garten sehen?  
Kannst mich  
Would you like to  
see our garden now?  
Come along!  
Bahommi de g'edmo,  
are m'agay?  
Gel barmmal!  
Zed! I de v'ed!  
nalle d'edmal!  
Halla se m'agay!  
Zed! I de v'ed!  
nalle d'edmal!  
Puol' sarral!  
«Quelles ver trembles  
nuestro garden?  
(Veni!)  
Quelles ver trembles  
nuestro garden?  
Veni!  
K'edmo, v'ed m'agay!  
Halla se m'agay!  
Halla se m'agay!



おにわもみたい？ いっしょにきて！

(17) 裏表紙



### 2. 作者へのインタビュー

筆者は2018年4月29日に作者であるツイントル氏の自宅で、多言語絵本「ようこそ Kita へ」の誕生までの経緯や絵本の内容に関して半構造化インタビューを行った。

(14)

Ich spiele gerne im Sand!  
Und ich fahre gerne Roller!  
I like to play in the sand!  
And I like to ride my scooter!  
Zajmo b'edmo (jeu dans le sable!  
'S' je aime bien faire du roller!



Cosco molto volentieri nella sabbia.  
E lo amo andare sul monopattino.  
Il radico arpa a m'agay!  
A se radico arpa a m'agay!  
K'edmo, v'ed m'agay!  
V'ed m'agay!  
Je v'ed m'agay a m'agay!  
A se radico arpa a m'agay!  
A se radico arpa a m'agay!  
B'edmo se m'agay a m'agay!  
A se radico arpa a m'agay!  
(Mi gusta jugar con la arena!  
(Y me encanta ir en patinete!)  
M'agay se m'agay a m'agay!  
K'edmo, v'ed m'agay!  
اناي اناي اناي  
اناي اناي اناي



わたしはすなばであそぶのがすき！ぼくはスクーターがすきだよ！

#### (1) 絵本出版の経緯

絵本誕生当時、ツイントル氏はミュンヘン市学校文化局の異文化間教育専門助言者として、幼稚園で勤務していた。毎年、新入園児の慣らし保育を目の当たりにして、子どもたちに幼稚園の一日の流れを家庭言語で示すことのできる絵本の必要性を感じた。特に次の出来事がツイントル氏を突き動かしたという。

(15)

Oh, Deniz ist gestürzt!  
Hast du dich verletzt, hast du Schmerzen?  
Nein, mir ist nichts passiert.  
Oh, Deniz ist gestürzt!  
Hast du dich verletzt, hast du Schmerzen?  
Nein, mir ist nichts passiert.  
Oh, Deniz ist gestürzt!  
Hast du dich verletzt, hast du Schmerzen?  
Nein, mir ist nichts passiert.  
Oh, Deniz ist gestürzt!  
Hast du dich verletzt, hast du Schmerzen?  
Nein, mir ist nichts passiert.  
Oh, Deniz ist gestürzt!  
Hast du dich verletzt, hast du Schmerzen?  
Nein, mir ist nichts passiert.

Oh, Deniz je passé!  
Est-il se pourjeté, imat il b'edmo?  
Non, rien ne m'as rien dit.  
Oh, Deniz se he cado!  
'S' he hecho d'edmal! 'S' he d'edmal e'edmo!  
Non, no me he pasado nada.  
(O) se m'agay!  
M'agay se m'agay a m'agay!  
(O) se m'agay!  
«Quelles ver trembles  
nuestro garden?  
(Veni!)  
Quelles ver trembles  
nuestro garden?  
Veni!  
K'edmo, v'ed m'agay!  
Halla se m'agay!  
Halla se m'agay!



おやまあ、デニズがころんだよ！  
けがをしたかい？ どこかいたい？  
うん、だいじょうぶだよ。

3歳になるトルコ人の女の子がいた。彼女は入園して間もなかった。突然、彼女は泣いた。あることをトルコ語で泣き叫んで、床の上に身を投じて、とてもヒステリックになっていた。私たちには、この子がどうしたのか分からなかった。するとその時、調理室で食事を作っていたトルコ人の料理人が来て、トルコ語でこの小さな女の子と話をした。料理人は、女の子は喉が渇いていて、水が飲みたいのだと言った。私たちはそのことを理

解していなかった。そう、だから、お腹が空いた、喉が渴いたと、ドイツ人の保育者に、基本的な欲求をドイツ語でも早く言えるように、そう、だから私はそのことが分かるようにテキストを作った。子どもたちを援助するために。

幼稚園での出来事をきっかけに、ツイントル氏はテキストを書いた。そして、挿絵も自分で描くつもりでいた。氏は当時のミュンヘン市学校文化局（現在の教育スポーツ局）の責任者だったハルトゥル＝グレッチュ博士に絵本について話をした。すると、ハルトゥル＝グレッチュ氏は絵本をミュンヘン市学校文化局で出版して、保育施設のために使用させてほしいと申し出た。ツイントル氏は無料でミュンヘン市に出版を許可した。挿絵はグラフィックアーティストが描き、2007年に出版された。

## (2) なぜ人形が登場するのか

絵本のストーリーは、女兒と男児の人形が読者である子どもたちに向かって、幼稚園について紹介する形で進行する。この点について、筆者はともに関心を持った。

インタビューによると、絵本出版よりも以前に、ツイントル氏はミュンヘン市異文化間パピットプロジェクトに参画していた。パペットは人形制作者によって作られ、様々な肌の色の人形から構成されていた。プロジェクトは2カ国家庭連盟とカリタス会が共同運営し、ツイントル氏はコンセプトを共に作り、幼稚園で人形を使った実践を行った。この時の経験から、人形が子どもたちに幼稚園の一日の流れを紹介するアイデアを思いついたという。人形が登場することによって、子どもたちは自分に話しかけられているように感じる。ツイントル氏によると、人形を用いることによって、子どもたちは人形だけを見て、自分がここにいることをも忘れてしまうという。すると、言語的にためらいがあったり、話す勇気がなかったりする内気な子どもたちが、突然、人形となら話すことができる。

ツイントル氏はある幼稚園で男の子のパペットを紹介した。25名の子どもたちの中にトルコ人の男児がいた。ツイントル氏はその子どもに、人形もトルコ人よと言った。そして人形が「ぼくはデニズ」とトルコ人の名前を言って、トルコ語の挨拶をした。するとこの男児は人形の方へ近づいて、話し始めた。彼は家庭のこと、好きな遊び、誰が友達か、家にはどんなおもちゃがあるか、どんな

言語を話すのか、ドイツ語で話し続けた。この出来事にその場にいた保育者たちは驚いたという。この男児は入園して半年で、まだ一度も集まりの会で話をしたことがなかった。保育者たちは彼がこんなに十分にドイツ語を理解していることを知らなかった。これまで一度も話そうとしなかった男児は、小さな男の子の人形によって、話をし、不安はなくなってしまった。インタビューの中で、ツイントル氏は自らの実践を示しながら、人形を使った実践は言語教育にとって有効であると強調した。とりわけ問題を抱えている子どもたちにとっては、子どもを中心に置くことなしに、事柄をテーマ化することができるため、効果的である。

## (3) 初版と2016年版の違い

まず、タイトルが「ようこそ幼稚園 (Kindergarten) へ」から、「ようこそ Kita へ」に変わったことが挙げられる。ドイツでは幼稚園は3歳から6歳までの子どもたちのための教育施設である。しかし、2007年以降、ミュンヘン市では保育園と幼稚園、さらには学童保育をも統合する Kita（保育施設）が増加した。このため、タイトル及び内容が3歳未満の保育園児と、小学校児童をも対象にするため改訂された。さらに、多言語使用について分かるように、扉には Willkommen（ようこそ）を11ヶ国語で記載し、その横に言語名がつけられた。

Kita の設置に伴う幼児教育制度の変化に応じて、挿絵も描き改められた。例えば、バギーに乗ったり、はいはいをしたり、乳児用の椅子に腰掛けたり、ペダルなしの車に乗る保育園児が描かれ、哺乳瓶やオムツダンスが描き込まれた。また、近年の子ども観及び保育観の変化にも対応している。初版では、読書コーナーで保育者が椅子に座り、子どもたちは床に座って、彼女の読み聞かせを少し距離をとって聞いていた。2016年版では、保育者と子どもたちは一緒に並んでソファに座っている。ツイントル氏は、「雰囲気が違う。より快適になった。共同的な関係になった。」と表現した。この10年余りの時間の流れの中で、保育施設における子どもたちの参画が重視されるようになった。幼児教育の変化が絵本の中に表現されている。

初版から一貫しているのは、挿絵の中に多様性の教育コンセプトが反映されていることだ。様々な肌の色の子どもたちがいて、父親と母親が送迎を担当している。積み木遊びコーナーで女兒が遊び、人形遊びコーナーでは男児も遊んでいるように描くことで、ジェンダーにも配慮した。また、

バイエルン州が力を入れているリテラシー教育については、既述した通り、保育者と子どもが並んでソファに座ることで、共同性が強調された。さらに、2016年版には車椅子に乗っている子どもが登場した。

ツイントル氏は絵本の挿絵に込めた思いについて次のように語った。「私は画家と挿絵のために話し合った。挿絵はインクルージョンと多様性を描写しなければならない。インクルージョンが自明なこととして表現されなければならない。子どもたちはそこに所属している。様々な肌の色、障がいを持つ子どもたち、みんながここでは歓迎されている、Kitaでは歓迎されている」ことが表現されなければならない。

さらに、保育施設では様々な遊びをする機会が提供されている。子どもたちは自分が何をしたいかを決めることができる。保育施設のオープンなコンセプトについても絵本では表現されている。

#### (4) 多言語絵本「ようこそ, Kitaへ」の役割

「ようこそ, Kitaへ」は子どもが家庭から園への移行を不安なく乗り越えられることを目的に作成されている。子どもは、家庭言語で語られることによって、自分のアイデンティティが真面目に受け止められていると感じる。現在は、シリアからの多くの難民の子どもたちが保育施設に在籍している。子どもの親の中にはドイツ語を理解できないケースがある。幼稚園の存在しない国出身の親もいる。難民は過酷な体験をして、子どもと一緒に避難してきた。親の中には子どものことを心配して、幼稚園に子どもを預けることを受け入れることができない場合がある。このような親にとっても、家庭言語で書かれた絵本はとても大きな役割を果たすという。

さらに、絵本を通して保育施設の一日の流れが規則正しい日課によって成り立っていることが理解できる。難民の背景を持つ子どもたちにとって、避難生活は過酷なものであった。次の瞬間何が起るのか、明日、何が起るのか、今晚どこで寝るのかもわからなかった。これに対して、保育施設では毎日、同じ日課が繰り返される。日常の習慣的行為 (Rituale) こそが、入園して間もない子どもにとっては心の安定につながる。絵本「ようこそ, Kitaへ」のストーリーはとてもシンプルなものだ。保育施設の登園から降園までの、毎日繰り返される日課で構成されている。子どもたちは慣らし保育で体験する日課を、絵本の中で再認することで見通しを持って、生活することが

できるであろう。

ツイントル氏の究極的な願いは、保育施設が子どもにとって安全な場所であることを伝え、難民の経験や精神的な外傷を持つ子どもたちが再び安定を取り戻すための手引きを示すことであると捉えられる。

## II. 親対象の多言語小冊子の実際と特徴

ミュンヘン市が新入園児に配布している多言語絵本「ようこそ Kitaへ」は保育施設の一日の流れを紹介することによって、子どもたちが安心して園生活に慣れていくことを目的としている。しかし、既述した通り、ドイツの保育施設における慣らし保育では、親が子どもの移行に同伴することが前提となっている。親の理解と協力なしに、子どものスムーズな家庭から園への移行は困難である。移民や難民の背景を持つ家庭の増加によって、ドイツでは国や州単位で親への幼児教育に関する情報を提供することが必要となっている。ここでは、連邦家庭、高齢者、女性、青少年省による親対象の多言語小冊子、及びバイエルン州労働、社会、家庭、統合省による多言語小冊子の内容を分析することによって、その特徴を明らかにする。

### 1. 多言語小冊子「ようこそ私たちの Kitaへ」

ドイツの社会福祉事業連合会 (Der Paritätische Gesamtverband) は親対象の多言語小冊子「ようこそ私たちの Kitaへ」<sup>5</sup>を刊行し、連邦家庭、高齢者、女性、青少年省の支援によって、連邦省のホームページに掲載されている。小冊子は20ページで構成されており、ドイツ語、英語、フランス語、ティグリニャ語、アラビア語、ペルシア語の6言語で書かれている。以下、筆者による日本語訳によって、内容を紹介する。なお、文章の体裁上、項目ごとに番号及び下線を付しておく。

#### 「ようこそ私たちの Kitaへ」の表紙



### (1) Kita への良いスタート

あなた方ご家族を私たちは歓迎します！  
この小冊子の中で Kita へのスタートに関する情報が 6 つの言語で手に入ります。

### (2) Kita って何？

Kita は安全な場所です。  
女兒と男児が Kitaに通っています。まだ小学校へは行きません。ここであなたの子どもは友達を見つけます。

あなたの子どもはドイツ語を学びます。  
あなたの子どもは小学校の準備をしっかりとします。  
Kita は幼稚園 (Kindergarten) や保育施設 (Kindertagesstätte) とも言います。  
子どもたちは Kita で何をするのでしょう？  
写真が多く例を示しています。

Kita では女性と男性がチームを組んで働いています。  
全員が教育者になるための養成を受けています。  
Kita には 2 分野あります。0 歳から 3 歳の子どもたちのための分野が保育園です。3 歳から 6 歳までの子どもたちのための分野が幼児教育 (Elementar) です。

### (3) Kita への良いスタートは大切です。

Kita へのスタートは慣らし保育 (Eingewöhnung) と言います。  
慣らし保育はスリリングで不案内なものです。  
親と子どもにとって、Kita はあなたたちを支援します。  
あなたの子どもはゆっくりと Kita に慣れて行きます。まずはあなたと一緒に。そして一人で。

### (4) Kita へのスタートはどのように進行するか？

はじめの間は、あなたは Kita で子どものそばにいます。最初の頃の訪問は短時間です。時間は毎日、教師とあなたに取り決めます。

一人の教師が特にあなたの子どもの面倒を見ます。  
この教師が質問に答えるパートナーです。  
こうしてあなたと子どもは新しい環境をしっかりと知っていきます。  
そしてあなたは教師と信頼関係を築きます。

今や次の一歩が続きます。あなたは子どもに別れの挨拶を告げます。あなたは Kita の別の部屋で待っています。数分も経たないうちにあなたは子どもの元に戻ります。あなたの子どもはますます長くあな

たがいなくても大丈夫になります。あなたの子どもが Kita で丸一日滞在するまで。  
あなたの子どもが別れの時に泣く場合、あなたはすぐに戻って、子どもを慰めます。  
Kita への慣らし保育は数週間かけることができます。

### (5) 知っておいてもらいたいこと。

- 質問はありますか？  
Kita はあなたのすべての質問に喜んで答えます。
- Kita は何を知っておかねばならないでしょう？  
あなたは Kita に子どもに関する大切な情報を与えます。
- あなたの子どもは泣いてもいいですか？  
涙を出すことは全く普通です。  
教師があなたの子どもを慰めます。

- あなたにとって食事で大切なことはなんですか？  
あなたはこのことに関して、私たちと話し合います。  
最初の頃の食事にはあなたも子どもと一緒に参加します。教師がその後この任務を引き受けます。

- あなたの子どもはどのようにオムツを当てられるのでしょうか？  
教師はあなたの仕方を見学します。そしてその後この任務を引き受けます。Kita ではすべての教師がオムツ替えをします。

- 他に大切なことはありますか？  
あなたは電話で連絡が取れるようにしておくことです。

### (6) Kita の一日

あなた方は到着します。  
そしてあなたの子どもを教師にゆだねます。  
あなたは子どもに別れの挨拶を言います。

- 子どもたちは朝食を食べます。
- 室内や園庭での遊びや活動をします。雨の日にも。
- 子どもたちは昼食をとります。
- 何人かの子どもたちは Kita にはお昼までしかいません。
- これらの子どもたちは今やお迎えが来ます。
- 年少の子どもたちは寝るか休息をとります。
- 室内や園庭での遊びや活動をします。雨の日にも。
- Kita は閉園します。

### (7) 慣らし保育のあと

あなたの子どもは Kita で元気にしていますか？  
 あなたの子どもは友達がいますか？  
 あなたの子どもはドイツ語を学んでいますか？

私たちはあなたと話をします。  
 私たちはこれをすべての親と行います。

多言語小冊子「ようこそ私たちの Kita へ」にはふんだんに写真が掲載されており、ドイツの幼児教育に不案内な親にも、容易に理解できるように構成されている。まさに、大人向きの絵本である。内容的には、Kita の有効性が強調されていること、慣らし保育の進行が分かりやすく説明されていること、Kita の一日の流れと日課が示されていることが特徴である。移民や難民の背景を持つ親の幼児教育への理解が促され、安心して子どもの移行克服に関与できるように構成されている。

### 2. 多言語小冊子「保育施設の子どもたち－庇護手続き中の親のための情報」

この小冊子は、バイエルン州労働、社会、家庭、統合省によって、庇護手続き申請中の親を対象に刊行されており、ドイツ語、英語、フランス語、ダリー語、アラビア語、ソマリア語によって記載されている。ドイツでは、難民の家庭が第一受け入れ施設から転出して、接続宿舎に入居する時点で、子どもの保育施設への入園、又は託児への子どもの権利要求の効力が発生する<sup>6</sup>。小冊子は庇護手続き中の親に向けて、バイエルン州の幼児教育制度に関する情報を提供するために刊行されている<sup>7</sup>。ここでは、小冊子の内容を筆者の日本語訳によって紹介する。小冊子は 31 ページあるが、実際には各言語ごとに 4 ページ構成である。文章の体裁上、項目ごとに番号及び下線を付しておく。

#### 多言語小冊子「保育施設の子どもたち」の表紙



### (1) 保育施設に来ることは子どもと親にとって利益です。

子どもたちは

- 他の子どもたちと友情を結べる。
- 子どもたちや大人とのつきあいの中で、ドイツ語を確実に習得できる。
- 多くの興味深い事柄のある新しい世界と知り合うことができる。
- 学校に行くために十分に準備ができる。

親は

- 他の親や子どもたちと知り合いになって、友情を結べる。
- 子どもに関して保育者と話ができる。
- 教育に関する情報が得られる。
- 時には自分も Kita のために何かをすることができ。例えば、子どもたちに故郷のお話を物語ったり、お菓子を焼いたりできる。
- 自分のための時間を持てる。例えば、ドイツ語コースや役所に行くために。

#### 保育施設とは何でしょう？

- Kita へは 1 歳から小学校 4 年生までの子どもたちが通っています。多くの場合、Kita では例えば、1 歳から 2 歳児、または 3 歳から 5 歳児のように特定の年齢グループに分けられています。6 歳児は小学校へ入学します。学童は放課後に Kita で昼食、宿題の援助、遊びのための提供活動を与えられます。
- Kita では女兒と男児と一緒に教育され、保育されます。
- Kita は通常、週に 5 日間、朝から夕方まで開いています。
- Kita には施設長と保育者チームがあります。彼らは養成を受けた有資格の教育者たちです。
- Kita はバイエルン州の教育制度の一部です。

#### 情報と申し込み

あなたの地域の Kita の一つに問い合わせてください。Kita でのあなたの最初の面談担当者は園長です。

大切なこと：申し込みの際して、次の申告が求められます。

- 子どもの氏名
- 子どもの生年月日と性
- 子どもと親の国籍



- 親の氏名と住所
- あなたの子どもは医学的な診断による障がいを持っていますか？
- あなたの子どもは就学に際して、通学を一時的に免除されましたか？

通常は、親は Kita に特定の額を月々支払います。あなたが定期的な賃金を受け取っていない場合、あなたの申請に基づいて、青少年局が普通その額を引き受けます。

子どもたちは Kita で何をするのでしょうか？

笑うこと、学ぶこと、探究すること、描くこと、友達を見つけること、体操すること、読書すること、寝ること、遠足に行くこと、食べること、歌うこと。

(2) あなたの子どもが Kita で幸せな時間を過ごすために、あなたは何に貢献できますか？

最初の数日間は、あなたは子どもと一緒に施設に数時間滞在します。このことは子どもがあなたから一定の時間離れることを容易にします。

子どもを約束の時間に Kita へ連れてきて、時間通りに迎えにきてください。子どもが Kita へ来れない時は、早めに知らせなければいけません。

子どもに Kita で何を体験しているか質問してください。そうすれば子どもの生活を分かち合うことができます。

Kita は親との懇談会を提供します。その機会を利用してください。そうすればあなたの子どもについて十分知ることができます。質問、願い、提案を出してください。Kita はあなたのことをさらに知ることがを嬉しく思います。

もしドイツ語を話せないならば、ドイツ語コースに通うことをお勧めします。そうすればあなたは子どものドイツ語学習を支援することができます。そして Kita で他の親たちとすぐにコンタクトをとることができます。

子どもが病気の場合は、自宅においてください！

こうして Kita は働いています：

- あなたの子どもがすでにできていることを尊重します。どの子どもも自分の長所、能力、関心にお

いて支援されます。

- あなたの子どもが欲していることを尊重します。子どもたちは安全に、安心感を抱いて、不安や強制なく遊び、学習できます。成績評価や体罰などありません。
- Kita の時間は刺激的で活動的です。子どもたちは何かに興味を持つときに、とりわけ学習します。どの子どもも好奇心、ファンタジー、関心に応じて遊ぶことができ、新しいことを発見し、実験することができます。そのための例えば、本、ゲーム、色鉛筆、木材、砂、水のような材料があります。
- Kita には日課が整えられています。教育活動と自由遊びが交互に行われます。多くの Kita では、一緒に食事をして、年少児は昼寝をすることができます。

Kita が知っておきたいこと：

あなたの子どもが元気であるために、Kita はあなたからのいくつかの情報が必要です。

- あなたの子どもが食べて良いもの、いけないものは？
- あなたの子どもを誰が迎えに来ていいのでしょうか？
- 緊急時、あなたへの日中の電話連絡先は？
- Kita が考慮すべきあなたの子どもの健康上の問題はありますか？

バイエルン州の多言語小冊子も、親に幼児教育の重要性と、保育施設に子どもが通うことの有効性を強調していることが、前述の小冊子と共通している。また、一日の日課を示していることも同じである。バイエルン州の小冊子の特徴としては、Kita のカリキュラムやコンセプトに触れていることである。つまり Kita では、子どもがすでに出来ること、及び欲していることに心を配り、興味のある活動の中でこそ多くの学びがみられるなど、幼児教育の基本について言及されている。ドイツのホリスティックな幼児教育に不案内な親にとっても、Kita が意味ある場所であることを理解できるように工夫がなされている。また、子どもの送迎時間を守ること、欠席時の連絡の必要性、病気の場合は出席を控えることなど、文化や習慣の違いから発生しがちなトラブルを未然に防ごうとしている。さらに、保護者自身にも、子どもの学習支援に関連づけてドイツ語コースへの参加を勧めていることも特徴である。

### 考察と今後の課題

筆者はこれまで折に触れて、バイエルン州で、家庭から保育施設への移行を、親と子どもと保育者が共同で乗り越えている実践を観察してきた。子どものその後の育ちに影響を与え、として、ゆっくりと時間をかけて、一人ひとりの子どものペースに合わせて慣らし保育に取り組んでいる。そのため、新入園児の入園は一度に行われるのではなく、慣らし保育のスケジュールに合わせて、順次入園の時期を迎えるように設定されている。親がリラックスして慣らし保育の時間を過ごせるように、別室にソファやコーヒー、雑誌などが用意されている。慣らし保育の時間の中で、子どもと保育者、親と保育者の信頼関係が育まれる。そして、次第に子どもは保育施設の一員となり、親は保育施設の親の一員となる。

本稿を通して明らかになったこととは、慣らし保育をスムーズに行うために、多言語絵本や多言語小冊子は特別な役割を担っているということだ。まず第一に、多言語で書かれていることで、子どもと親の言語や文化に対する敬意を示すことができ、彼らのアイデンティティを強めることができる。子どもにとっては、保育施設の一日の流れを知らせることで、保育施設が安心できる、楽しい場所であることを伝える役割を果たす。親にとっては、幼児教育の重要性を伝え、保育施設が親と子どもにとって利益をもたらすことを知らせる役割を果たす。また、保育者は養成を受けた教育専門家であることを明記することによって、信頼感を育む努力がなされている。子どもと親の安心や信頼なくして、家庭から園への移行の成功は難しい。ましてや幼児教育のことを知らない親にとっては、子どもの入園まで漕ぎ着けること自体が課題でもある。慣らし保育に着手する時点で、保育施設が魅力的で、意味あるところであるという期待を持つことが移行の成功にもつながることは明らかである。

ツイントル氏の絵本では、パペットが重要な役割を果たしていた。ストーリーの中でパペットを案内人にして、子どもを中心に置かないことによって、問題を抱えている子どもや内気な子どもは安心して物語に身をゆだねることができる。ツイントル氏は保育実践の中で、子どもとの関わりの中で絵本のストーリーを構想したがゆえに、子どもの内なる思いや要求に応えるものとなっている。各園で、パペットを使って、絵本の物語がさらに発展していく可能性もある。ドイツ語以外の家庭言語を持つ親を招待して、他言語による

読み聞かせを行うことも可能である。

親対象の多言語小冊子では、移民や難民の背景を持つ親のドイツの幼児教育への理解のために、端的明瞭にドイツ語が学べる、小学校準備ができると利点をあげている。バイエルン州の小冊子では、より明確に、利益 (Gewinn) と言う表現を使っている。移民や難民の背景を持つ親の出身国の幼児教育は、ドイツのホリスティックな幼児教育とは大きく違っていることが推察される。就学準備型の幼児教育しか経験したことのない親や、ましてや幼稚園について知らない親にとって、遊びや生活の中で学ぶドイツのホリスティックな幼児教育の意味は理解しづらいことが容易に想像できる。そのため、抽象的な表現ではなく、具体的に、単刀直入に、利益となる点を例示することによって、幼児教育への理解を図っていることが共通している。このような努力こそが、子どもの幼児教育を受ける権利の保障につながるのである。

日本では、昨今、幼小接続に関しては大いに議論され、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が記載されている。また、市町村によっては、小学校への入学に向けて家庭や園で留意すべきことや、育てたい姿について指針を刊行している<sup>8</sup>。ここで注目すべき点とは、日本の議論の特徴が、教育履歴つまり学校種間の接続に重点が置かれていることである。そのため、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを作成して、学びのスムーズな接続を図ろうとしている。しかし、家庭から園への移行や慣らし保育、ましてや、外国にルーツのある子どもの家庭からの移行には、国や自治体が意識的に取り組んでいるとは言い難い現状がある。本稿で取り上げたドイツの場合、移行概念は、日本よりも幅広く、人生全体に及んでいる。そして、教育歴の移行の最初に起こる、家庭から園への移行に十分な時間と労力をかけているところが大きく違っている。日本の幼児教育改革において、接続をさらに幅広い概念でとらえ直してみることは、子どもの育ちにとって意味あることであると考えられる。

2019年は子どもの権利条約が国連で採択されて30年、日本が条約を批准して25年となる年であった。2019年2月に、国連子どもの権利委員会から日本は様々な問題に対して国内対応を求める勧告を受けている。その中で、民族的マイノリティの子ども、韓国・朝鮮人等の日本国籍以外の子ども、移住労働者の子どもに対する差別防止措

置の強化が求められた。このような中、2019年10月には文部科学省が実施した調査の結果が発表され、外国人の子どもの不就学問題が露呈した。外国人の子どもの不就学問題は、それ以前の家庭と社会との繋がりや、家庭支援のあり方に根本的な原因があることが推察される。福岡県のある小学校の校長によると、現在、当該校に外国人の子ども7名が在籍しているが、全員が就園の経験がないようだ。幼稚園、保育所等を経験しないまま、家庭から小学校へ移行する外国人の子どもたちは基本的な生活習慣や社会性、そして日本語能力の面において不利なままスタートするわけで、その後の育ちへの影響は計り知れないものがある。また、母親の社会的孤立も懸念される。可知の研究によれば、親のどちらかが外国籍の子どもは未就園児になる可能性が高いという。その原因として、言葉の壁によって、親が入園手続きをできないケース、入園したものの馴染めずに退園してしまうケースがあると指摘している。また、幼児教育に対する価値観の違いから、就園する必要性を感じない家庭もあると考察している<sup>9</sup>。

すべての子どもたちの幼児教育を受ける権利を保障するために、私たちは対策を講じなければならない。子どもの家庭から園への移行克服がスムーズなものとなるよう、ドイツの取り組みから学ぶ意味はここにあると考える。

**謝辞** 本研究ではミュンヘン市教育スポーツ局のヘルマン博士、ツイントゥル氏、及びバイエルン州立乳幼児教育研究所のローレンツ博士にご協力いただいた。ここに感謝を表す。

**付記** 本研究はJSPS 科研費(15K04304)の助成を受けたものである。本論文は、その一部を日本保育学会第71回大会にて発表した。

## 註

<sup>1</sup> Bayerisches Staatsministerium für Familie, Arbeit und Soziales & Staatsinstitut für Frühpädagogik(2018): Der Bayerische Bildungs- und Erziehungsplan für Kinder in Tageseinrichtungen bis zur Einschulung. Berlin: Cornelsen. (以下、BEPと略)

<sup>2</sup> Fabienne Becker – Stoll / Renate Niesel / Monika Wertfein(2014): Handbuch Kinderkrippe.

So gelingt Qualität in der Tagesbetreuung. Freiburg: Herder.

<sup>3</sup> 多言語絵本が配布されるミュンヘン市立保育施設には、保育園(Kinderkrippe)、幼稚園(Kindergarten)、子どもの家(Haus für Kinder)が含まれている。

<sup>4</sup> Landeshauptstadt München, Referat für Bildung und Sport(2016): Willkommen in der Kita. Idee und Text: Paula Zintl. Illustration: Christoph Gremmer. <https://www.muenchen.de/rathaus/Serviceangebote/familie/kinderbetreuung/kindertageseinrichtungen.html> (2020. 9. 14)

なお、Kita(Kindertagesstätte)とは0歳から6歳までの就学前保育施設と小学校4年生までの学童保育施設の総称である。日本語訳としては、保育施設、保育園、全日制託児所などが考えられるが、幼児教育制度の背景の違いを考慮して、本稿では原語のKitaを使用することとした。

<sup>5</sup> Der Paritätische Gesamtverband(2017): Herzlich Willkommen in unserer Kita. <https://www.bmfsfj.de/blob/120876/aeb4bd50ba2a811c4d5fb2e0a1a56ef9/herzlich-willkommen-in-unserer-kita-data.pdf>(2020. 9. 14)

<sup>6</sup> Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Soziales, Familie und Integration(2015): Asylbewerberkinder und ihre Familien in Kindertageseinrichtungen. Informationen für Kindertageseinrichtungen in Bayern. S. 7. [https://www.ifp.bayern.de/imperia/md/content/stmas/ifp/asyhandreichungkita\\_barrierefrei.pdf](https://www.ifp.bayern.de/imperia/md/content/stmas/ifp/asyhandreichungkita_barrierefrei.pdf)(2020. 9. 16)

<sup>7</sup> Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Soziales, Familie und Integration(2016): Kinder in Kindertageseinrichtungen. Informationen für Eltern im Rahmen des Asylverfahrens. 小冊子は印刷物とともに、バイエルン州労働、社会、家庭、統合省ホームページでダウンロードが可能となっている。 [https://www.bestellen.bayern.de/application/eshop\\_app000004?SID=713039506&ACTIONxSESSxSHOWPIC\(BILDxKEY:%2710010512%27,BILDxCLASS:%27Artikel%27,BILDxTYPE:%27PDF%27\)](https://www.bestellen.bayern.de/application/eshop_app000004?SID=713039506&ACTIONxSESSxSHOWPIC(BILDxKEY:%2710010512%27,BILDxCLASS:%27Artikel%27,BILDxTYPE:%27PDF%27)) (2020. 9. 9)

<sup>8</sup> 例えば、福岡県A市では保育士・教員向けパンフレットを発行し、保幼小の接続期における発達と学びの連続性の実現のための指針を示している。また、家庭向けパンフレットでは、基本的な生活習慣、遊びや体験、人とかかわる力の発達を目指して、家庭でも子どもを援助するように呼びか

けている。

<sup>9</sup> 可知悠子 (2019) : 「社会的不利や健康・発達の問題が3, 4歳で保育園・幼稚園等に通っていないことと関連-約4万人を対象とした全国調査の分析から-」 Love Tech Media 北里大学。 <https://lovetech-media.com/news/parent/>

20190414\_01/ (2020. 9. 12)

及び, 可知悠子 (2019) : 「保育園にも幼稚園にも行けない子どもと親の深い事情- “子ども食堂”の時代-親と子のSOS-」 毎日新聞 (2019. 4. 29) <https://mainichi.jp/premier/health/articles/20190424/med/00m/100/009000c> (2020. 9. 12)